

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 1 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	0171400617		
法人名	医療法人 大庚会		
事業所名	グループホーム 街		
所在地	〒040-0012 函館市時任町35番3号 (電話) 0138-33-1317		
評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成21年12月27日	評価確定日	平成22年1月23日

【情報提供票より】 (平成21年11月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.0人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000~25,000 円
敷金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 450 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年11月25日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	1名	要介護2	1名
要介護3	3名	要介護4	3名
要介護5	1名	要支援2	
年齢	平均 83歳	最低 71歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今整形外科、こんクリニック時任、光銭歯科、本間眼科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム街は、函館市の中心部で閑静な住宅街に位置している。敷地内に母体の医療法人やグループホームこはこだて、併設の各種高齢者福祉事業所がある。運営者は市内の他の場所にも施設を運営しており、毎年、全事業所の職員が合同でシンポジウムを開催し、サービスの質の向上に研鑽している。事業所内は明るく、和風造りの小あがりは利用者の憩いの場となっている。職員間のチームワークがよく、常に情報を共有し、理念に添ったケアの実現に努めており、医療機関が隣接していることは、利用者や家族に安心感を与えている。今後大いに期待される事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題は、運営推進会議の中で意見をもらいながら、管理者と職員が話し合いを重ねて改善に繋げている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は、サービス評価の意義や目的について把握している。自己評価は、管理者が作成し、完成後に職員から意見をもらうようにしているが、職員全員で取組むことを期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月ごとに実施している運営推進会議は、事業所の行事や利用者の暮らしの様子、外部評価結果を議題とし、改善にむけての意見やアイデアをもらい、サービスの向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時に要望や意見、相談など常に問いかけて、何でも言ってもらえるよう雰囲気づくりに留意している。出された要望などは、ミーティングで話し合い、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者は、町会の行事に積極的に参加している。七夕まつりには大勢の子供達の訪問があり、家族が提供する新鮮な「いか」の無料配布と事業所のイベントのパンフレットを地域に配り、大勢の方々が訪れ盛大に行われている。高校の福祉科と調理科の「高齢者用の食事会」に招かれ、感想や意見を述べるなど、地域との交流を盛んにしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域生活の継続」と、「本人主体とした柔軟な支援」を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所や台所など、職員の見やすいところに理念を提示し、ミーティングで確認、共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会の各種行事の参加や、七夕まつりには大勢の子供達が訪れ、利用者とのふれあいがある。事業所主催の行事の際には、地域の方々が来てくれたり、高校の福祉科の実習生の受け入れや、「高齢者用の食事会」に招かれており、地域との交流を盛んにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的について職員は把握している。自己評価は管理者が作成し、後ほど職員の意見を伺っている。	○	

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催している運営推進会議は、事業所の報告と利用者の暮らしの様子や外部評価結果を議題とし、だされた意見やアイデアを改善に繋げている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃、市の担当者と運営上の相談や疑問、要望などの意見交換をしたり、研修会などの情報を得るなど常に連携して、サービスの向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活の様子や職員の異動、金銭の明細は領収書を添えて、面会の時や毎月の便りで報告している。体調に変化がある時は、電話で家族と相談している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の時に、希望や意見、相談など常に問いかけて、何でも言ってもらえるよう雰囲気づくりに留意し、だされた要望などは、ミーティングで話し合い運営に活かしている		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族と信頼関係を築くためにも、馴染みの職員によるケアを大切に支援している。代わる場合は、職員のバランスを考えながら、少しずつ、さりげなく、代へて利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、シフトを調整し協力しあって研修会に参加している。運営者は年1回、法人事業所の全職員による合同のシンポジウムを開催、講演や職員の実践発表があり、報告、感想、評価などの記録をとっている。働きながら、資格を取得した職員もいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のブロック別の新年会やバレーボール大会などで、同業者との交流があり、意見交換や情報交換を通して、参考になる部分を日々のケアに活かしている。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してサービスを利用するために、家族の見学や、管理者が自宅を訪問したり、病院での接見を重ねて、顔馴染みの関係をつくりながら情報を得て、サービスを開始している。雰囲気馴染むまでは、家族と相談するなど工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に本人の思いをくみ取り、楽しく、和やかに過ごせるように場面づくりをして、共に支えあう関係づくりに留意している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々かわりの中で声かけし、意向の把握に努めている。意志疎通が困難な利用者には、表情や動作などで真意を測ったり、家族から情報を得るなど、本人の思いを大切に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議に、家族が参加して意見や要望を聴き、職員のアイデアを取り入れて話し合い、一部センター方式で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に、3ヶ月ごとの見直しであるが、状態が変化した時は、かかりつけ医や家族と検討して、新たな介護計画を作成している。遠方の家族には、電話で要望を聴き見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じて、受診支援、かかりつけの理容院、美容院の送迎支援、毎月お墓参りの送迎、一時帰宅送迎支援など臨機応変に柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により以前のかかりつけ医の受診は可能である。母体法人の看護師が訪問して利用者の健康を管理している。夜間の対応も体制が整っており適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約の時に、重度化や終末期について家族に説明している。馴染みの中でのターミナルを望む利用者や家族が多いので、母体医師や看護師の指導や勉強会などをして、職員は方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについて、契約時に家族に説明し確認印をもらっている。個人の記録は事務所に保管している。管理者は、日々のかかわりの中で、プライバシーを損なわない対応の徹底を図り、職員は言葉がけに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせて、起床、就寝、食事の時間は規制がなく、本人の気持ちを尊重した支援をしている。その日の要望で、買い物や散歩、歌、折り紙など希望にそって支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は利用者と一緒にしている。家族からの差し入れを調理したり、時にはバイキングや外食、パン食などを取り入れ、楽しく食事ができるよう工夫をしている。一人ひとりの力にあわせ、盛り付けや後片付けと一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝に入浴の準備をしているので、利用者は望むといつでも入浴ができる。拒否する利用者には、タイミングをみて声を掛けたり、足湯や清拭など工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	在宅の頃、パークゴルフが得意な利用者のために、パターゴルフを手作りで用意し大変喜ばれたり、家事仕事、お花や野菜作り、手芸を得意とする利用者など、一人ひとりの生活歴や能力に添って支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は出来る限り外に出かけるように、散歩、ドライブ、外食、買い物など一人ひとりにあわせ、声をかけて支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	その日の気分や状態をきめ細やかに観察して、外出傾向のある利用者を見守り、日中、玄関は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接の事業所と合同で、夜間想定を含んだ防災訓練をしている。緊急連絡網に町会の方々がおり、通報訓練から参加している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人に管理栄養士がいるので、栄養のバランスやカロリー、献立をチェックしている。水分摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員は情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、バリアフリーが完備され、不快な音もなく採光はカーテンで調節している。和風作りの小あがりには季節の花や小物が飾っており、利用者の憩いの場となり、居間の金魚は心を癒している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、陽当たりがよく、在宅当事の仏壇や家具、冷蔵庫があり、居心地よく過ごせるように工夫をしている。書道の講師をしている職員が、誕生日にプレゼントした墨絵入りの書が、小さな額に納められて飾ってある。		

※  は、重点項目。